

木津川市の名産である「京織ふすま紙」の製造販売会社を 長男に承継 《親族内承継》

丸由産業株式会社 経営者：福岡貞男さん（73歳）
（京都府木津川市） 後継者：福岡善基さん（42歳）…長男／専務取締役
＜支援協力：木津川市商工会＞

相談者（企業）の概要

- ▶ 当社は木津川市だけで全国シェア9割を占める特産品である「京織ふすま紙」の生地を関連会社（福岡織布株式会社）が製造しており、これを当社が壁紙やふすま紙に生産加工して内装資材卸業者に納入している。
- ▶ 沿革
 - * 昭和2年に祖父の福岡作次郎氏が福岡織布工場を設立して蚊帳織物を創業
 - * 昭和20年頃から蚊帳の技術をもとに襖生地の織物を始める
 - * 昭和47年に父の福岡善盛氏が壁紙・襖紙を製造販売する当社を設立
 - * 昭和58年に関連会社として福岡織布工場を福岡織布株式会社に法人化
 - * 平成19年に後継者の福岡善基氏が入社



当社で活躍するラミネート機



京織ふすま紙は古くから木津川市で生産されている織物で襖・壁・天井・障子・屏風などに加飾された内装材料のことで、自然素材を使うため、体に優しく、丈夫でデザイン性に富み、襖に適した製品です。全国シェア9割を市内で生産しており世界に誇る伝統産業です。

相談の概要

- * 関連会社の福岡織布株式会社については既に長男の福岡善基氏に代表権を移したが当社の長男への事業承継を機に福岡織布株式会社と経営統合をしたい。
- * できるだけ課税リスクが少ない方法を取りたい。
- * 当社も福岡織布株式会社も工場敷地が福岡貞男氏個人の所有名義であり、これも後継候補者の福岡善基氏へ円滑に承継させたい。



ひとこと

当職の弁護士としての知識や経験を活かすことができた案件となりました。後継者となるご長男が主体的に事業承継の必要性を考え、経営者と色々と討議する姿に頼もしさを感じました。この度の事業承継計画の策定によって当社が持続的に発展し、木津川市の名産である「京織ふすま紙」が地域資源として守られることを心より願っております。



左から、原特別経営指導員(相楽BS)、中山課長(木津川市商工会)、福岡さん親子、八田公認会計士

支援の経緯と当センターのサポート

- ▶ 木津川市商工会経営支援課長中山裕之氏からの紹介
- * 後継候補者の福岡善基氏が、当社の事業承継を機に福岡織布株式会社との経営統合を考えていた。
- * その具体的な手続きを知りたくて木津川市商工会に相談したところ当センターを紹介された。
- * ご相談内容としては①関連会社との経営統合の方法を知りたい ②引き継ぐべき代表者の業務を理解したい ③承継に向けての具体的な進め方がわからないというものであった。
- ▶ 当センターでは、前述の相談事項の①については「事業譲渡と通常清算」の方法以外にも「吸収合併」の方法があることをご説明し、②と③については事業承継計画の策定とアドバイザーとして当センター登録の外部専門家（八田公認会計士・税理士）の活用をお薦めした。



事業承継計画書を手にする
福岡善基さん(左)と貞男さん

支援の効果（相談者の感想など）

- ▶ 事業承継計画書策定の過程で、経営者と後継者の思いをヒアリングするとともに、当社の財務分析及び事業分析を行なった。
- ▶ 代表者としての業務が可視化され、後継者が次期代表者として引き継ぐべき手順を具体化することができた。
- ▶ 当社株式の集約と承継、財務内容の改善、事業用不動産の承継方法についても具体的な計画が立てることができた。